

根室地区 教育経営研究会

- 1 目 的 学校運営に係わる組織・法制上の諸問題を解明し、校長としての職能向上に努め、学校教育のより円滑な推進に資するとともに、各学校の経営上の成果を踏まえ、生涯学習社会における学校教育の望ましい在り方について研究協議を行い、充実した学校経営の推進に資するものである。
- 2 主 催 根室管内校長会
- 3 後 援 北海道教育庁根室教育局 根室管内市町教育委員会
北海道小学校長会 北海道中学校長会 北海道教育振興会
日教弘北海道支部
- 4 主 管 根室管内校長会経営部
- 5 日 時 令和7年 10月2日(木)
- 6 会 場 標津町生涯学習センター 遠隔(Zoom)会議
- 7 参加者 根室管内校長会員 (21名)
- 8 日 程 9時00分～ 9時05分 開会式
9時05分～ 9時55分 解説と質疑
9時55分～10時00分 閉会式
- 9 解説と質疑
北海道小学校長会 事務局次長 丸岡 哲也 氏(古平町立古平小学校)
北海道小学校長会 研修部副部長 松本 昌也 氏(札幌市前田北小学校)
北海道中学校長会 経営部部長 北村 剛 氏(石狩市立花川南中学校)

道小・道中の活動報告及び教育情勢について

北海道小学校長会 事務局次長(古平町立古平小学校) 丸岡 哲也 校長より

- 1 道小は結成68年目、道中は結成79年目を迎えている。北海道教育の振興を目的に活動を積み上げている。
- 2 道小の上位団体は全国連合小学校長会(全連小)、道中の上位団体は全日本(ぜんにつぼん)中学校長会(全日中)。全連小・全日中を通して、文部科学省・国に声を届けている。
- 3 道教委にも声を届けていて、今年度は5月26日に、道小・道中・道公教が、道教委に対して「北海道文教施策・予算策定に関わる要望書」を手交した。今年度は、中学校35人学級の前倒し実施や教員の確実な配置及び欠員補充の確保体制の強化、管理職候補者の育成などを盛り込んだ。
- 4 この要望事項の回答は7月初めころに送られてきた。その内容に沿った形で、今年は8月6日に道教委との「意見交換会」「各課懇談会」を開催した。
- 5 研究大会については、道小・道中・道公教で開催期日が被(かぶ)らないように取り決めがされており、道小では9月の第2週目、道中では9月の第4週目を基本に開催されることになっている。今年度、道小は9月12・13日の二日日程で、根室大会を開催し、全道から470名を超える会員が中標津町・標津町に集まった。大会実行委員会である根室管内校長会の皆様のご尽力により、参加された皆様の熱意を十分に感じることができる素晴らしい大会となった。
- 6 道中は昨年度、9月27日・28日の二日日程で、十勝・帯広大会が開催され、全道から320名を超える会員が帯広市に集まった。全日中研岩手大会での提案概要の発表、文科省講話や田中賢介氏の記念講演などに加え、5つの分科会に分かれ熱心にグループ協議を行うなど、参加された皆様の熱意を感じることができる、素晴らしい大会となった。今年度は9月26・27日の二日日程で、胆振・室蘭大会を室蘭市で開催する。
- 7 全連小では、10月17・18日に、全国連合小学校長会研究協議会徳島大会が開催され、全国から約2,200

名が「阿波の国」徳島に参集した。今年度は10月16・17日に、福岡大会が開催される予定。北海道からは、渡島地区と宗谷地区の発表が行われた。次年度は札幌市において北海道大会が開催されるので、現在準備委員会を立ち上げ、準備を進めている。

- 8 全日中では、10月17・18日に、全日本(ぜんにっぽん)中学校長会研究協議会岩手大会が開催され、全国から1,700名を超える会員が東北の岩手県盛岡市に集まった。今年度は10月23・24日に、香川大会が香川県高松市において開催される。北海道からは、札幌市地区から全体協議会提案発表、後志地区と小樽市地区から分科会提案発表が行われる。
- 9 道小・道中組織は、各地区の会員の皆様の支えによって成り立つ組織です。全道各地区から、会員を代表する理事や代議員などの皆様にご出席いただき、前年度の活動報告と会計収支決算報告などを審議するとともに、今年度の活動方針及び予算案などが審議されている。
- 10 理事研修会は、道小・道中の執行機関として、それぞれ年5回開催している。道教委からの行政説明などもあり、職能向上とともに、道教委の施策についても理解を深める場となっている。近年、道小・道中とともに年2回をWeb開催とし、参加者の負担軽減と会の経費削減を目指している。
- 11 道小では、毎年6月に「全道会長研修会」を開催して、全道20地区の会長と、所管する対策部、へき複連、道特協、事務局員が参加し、各地区が抱える課題や取組についての交流を行っている。
- 12 事務局の活動について紹介。道小では年間14回、道中では年間9回、定例の事務局研修会を行っている。事務局研修会では、各部の活動内容の提案や機関会議等の準備、教育情勢の学習などを行っている。
- 13 道小と道中の連携を深めるために、道小と道中の役員が協議をする「小中合同研修会」を年に9回行っている。また、年に1回、道小と道中の事務局員が年間活動計画などについて交流し、共通理解を図ることを目的に、「小中合同事務局研修会」を行っている。
- 14 事務局員は、関係団体の諸会議にも参加している。あまりよく知られていない活動であるが、スライドに記載しているとおり、多くの関係団体の諸会議に道小・道中の役員が分担して出席し、教育現場にいる立場から意見や要望を伝えている。
- 15 刊行物について。道小と道中では、様々な刊行物を発刊している。「道小情報・道中だより 号外」は年間2部発行している。
- 16 組織の運営について。道小では、組織の充実と効率的な運営を図っていくために、会長の諮問により開催する「企画研修委員会」という部署で検討している。
- 17 道小・道中とも全道各地区の会員の皆様お一人お一人と手を携えながら、北海道教育の振興と私たち校長の職能向上のために努めている。今後とも活動に対する皆様のご理解とご協力をよろしくお願いしたい。

【他地区から質問が多かった質問についての解説】 (質疑応答はなし)

北海道小学校長会 研修部副部長(札幌市立前田北小学校) 松本 昌也校長より

質問：別支援学級の在籍数が増えている、教員の負担増、定数が増えるのか。

解説：道教委、定数の改善は道独自では難しい。他の全国都道府県教育界連合会と共に国に要望していく。

全連小、小学校教育充実のための予算の要望、学級編成・定数改善の要望を上げている。

文部科学省は特別支援学級・通級の教職員定数に限定した具体的な動きはない。

教職員定数の改善に向けて、今後も要望していく。

北海道中学校長会 経営部部長(石狩市立花川南中学校) 北村 剛校長より

質問：役職定年制について

解説：道教委に、役職定年制の成果と課題について質問した。

道教委の回答は、役職定年制は、若手、中堅職員の昇進機会が失われることによる組織の新陳代謝を阻害せず、組織全体の活力を維持するために管理職を60歳から非管理職にするもの。後任の校長、教頭の育成が課題。特に教頭の確保が課題(特例任用制度の活用、柔軟な運用を検討)。

全道小・全道中の今後の展望(要望)2点

- ・特例任用制度の活用 柔軟な運用。
- ・OJTやメンター制度の強化、元管理職の経験を生かした指導体制の整備(後継者の人材育成)。

※ 追加質問等はなし

13 閉会式

根室管内校長会会長	根本 渉から謝辞
根室管内経営部副具長	小森 和則の挨拶で閉会